



おおぞら

第223号

2025年7月1日発行

発行責任者 山本 貴道

編集者 木部 哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

「おおぞら療育センターの 防災対策への取り組み」

3号館看護課長 元木 実希



を高め
られる
ことを
目標と
してい
ます。
今回
はおお
ぞら療

令和6年1月1日に能登地方を震源とする地震が発生しました。当院でも静岡県からの要請に基づき、災害派遣医療チームの派遣を行いました。地震直後からテレビに映し出される家屋の崩壊、火災、道路の寸断、港の隆起などの映像、当院の災害派遣医療チームからの活動報告で被害の大きさを知る度に驚きしかありませんでした。大地震はいつかこの地域にも起こりえることであり、そのために少しでも多くの準備をしておく必要性を感じました。このことから、おおぞらの防災委員会では、防災委員は各部署の災害時のモデルとなること、職員の防災意識

育センターの防災対策への取り組みについてお話しします。防災委員会では2022年度より、現行のマニュアル等の見直しを行い3つの内容を改訂しました。1つ目は、災害対策本部組織図です。現行の組織図では、地震発生後に各対策班の責任者を本部で任命することになっていました。しかし地震発生後の任命では、各対策班が迅速に活動することは難しいことが予測され、予め責任者を明確にする必要がありました。入所部門3部署（1号館・2号館・3号館）・通所・リハビリ・栄養課・事務・保育園の8部署があります。それぞれの部署のリーダーを含めた役職者が優先的に責任者となり、スタッフがすぐに初動活動ができる体制作りをしました。2つ目は新しい組織図にあわせた行動リストです。行動リストとは、災害時に実施する各対策班の行動内容をリスト化したものです。

現行の行動リストでは各対策班の動きが把握しづらく、協力体制が取りにくいことが課題として挙がっていました。各対策班が他の対策班と共に実施する行動をリストに変更し、協力体制がとりやすいように改訂しました。3つ目は、地震時の事業継続計画書です。事業継続計画（BCP: business continuity plan）とは震災などの緊急時に低下する業務遂行能力を補う非常時優先業務を開始するための計画です。事業をできるだけダメージを少なく継続・復旧するためのものであり、日常から「不測の事態」を分析し自施設の脆弱な点を洗い出し、その脆弱な部分を事前に補うよう備えておくことを目的としています。災害発生直後〜6時間、災害発生6時間〜当日、災害発生翌日から3日目、災害発生4日目以降に分けて、停電・施設損壊・断水等が起こった時に想定されるトラブルを洗い出し、現時点で考えられる対応方法を検討していきます。例えば、人工呼吸器等の医療機器・酸素の供給がいつまでできるか・食事をどのよう



に準備して配るのか等、様々なトラブルとそれへの対応方法です。普段当たり前に整備されていることが出来なくなったりときに限られた職員数で、利用者の安全と良い環境を保つための準備をする必要があります。これについては、現行では各号館、通所で単独の事業継続計画であったため、施設全体で応援体制をとれるような継続計画へと見直しました。2024年度はこの3つの改訂が終了し、今年度は年間で計画を立てて防災訓練を行っていきます。マニュアルについては訓練の度に見直しを行っていきます。今後、施設での防災対策を万全に備えていきます。

はるかの個別活動

武藤 唯衣

はるか利用者Aさんは口中リビング内を背ばいで自由に動いており、同じリビングで過ごす他児の顔をのぞきに行ったり、玩具や絵本を広げて気になる物を選ぶ等、興味を持った人や物の近くに積極的に移動しています。録画レコーダー等の自分では操作できない物や、手の届かないところにある玩具が気になると声を出しながらそれらを指さして要求する姿が見られており、ある程度自分の行動と結果の結びつきを感じています。

個別活動では磁石を使い、同じ操作で動きに違いがある活動を行いました。3つの素材（クリップ、モール、ラッピングタイ）をそれぞれ厚紙の上に散らし、磁石を近づけた時の動きやくつき方を見比べるといった活動です。最初に厚紙の上にクリップが散らばると口元を緩めていて、手の動きを止め注視していました。職員が磁石を持ち、ゆっく



りとクリップの上を動かすとその手元に注目し追視します。紙の上に素材がなくなってくると磁石の先端へと視線を移し、磁石と素材の動きに注目していました。Aさんに磁石を渡すと直にくつつけようとはせず、素材との距離がある状態からくつつく様子を見ていることがあります。磁石に引き寄せられる素材を見て口元が緩んでいて、全てくつつけるとにこやかな表情で職員の方へ顔を向けていました。クリップでは全てくつつけ終わると下から覗くように見ていることがあり、連なって垂れ下がるような形にも面白さがあるように感じました。その他の素材でも、大小様々なモールがバラバラに付くところやラッピングタイが磁石先端に小さくまとまって付くところ等、それぞれの形にも注目し表情を緩めていました。活動を始めた初期は素材がくつつく様子をじっと見ているのみでしたが、今では自分で素材をくつつけるだけでなく、じっと観察した後に自分で剥がす様子が見られています。剥がした後クリップの穴から職員の方を覗く、ラッピングタイを指でかき混ぜるように触るといった動きが見られ、素材そのものの形の特徴や質感を楽しんでいるようでした。

今回行った磁石の活動では、自分や職員の手操作によって素材が引き寄せられてくつつく動きと、3つの異なる素材の形や動き方の違いが面白さに繋がりました。また、磁石と素材の動きから素材概念を裏切るマジックのような面白さに気付く良いきっかけとなりました。

日常生活の中でも物の見方や扱い方の変化からAさんの成長が感じられています。今後もAさんが興味を示している物事に注目し、成長発達に繋がるような活動を行っていかれたらと思います。

児童発達支援センターひかりの子卒園式

(2025年3月31日開催)

2024年度の卒園式を執り行いました。卒園児7名が全員出席され、多くのご家族の参加により、大切な門出をお祝いすることができました。卒園児の保護者の皆様から、今までのご苦労やひかりの子での思い出など、心温まる言葉もいただくことができました。



おめでとうございます

入所 卒業式・入学式



入学式



卒業式



新人・異動職員 紹介

「看護師」

2号館 岡本美佳子

4月から2号館に入職しました。岡本美佳子です。まだ一人一人の利用者のケアを覚えるに必死な状態です。これから、安全安楽なケアと関わりができるようにがんばっていききたいと思えます。宜しくお願いたします。

2号館 藤原恵

3月中旬より2号館へ異動してきました藤原恵です。全く新しい分野で戸惑いも多い日々ですが、他のスタッフに支えてもらいながらも係長として病棟に貢献できるように努めていきたいと思えます。よろしくお願いたします。

2号館 石野千晴

育休明けより2号館配属となりました。初めての異動でもあり、おおぞら療育センターでの配属も初めてのため、慣れないことも多いですが、1日も早く業務を覚えて利用者さんに寄り添った看護ができるように頑張ります。よろしくお願

いたします。

3号館 沖田美祐

4月より、3号館に配属となりました。未熟な部分が多々あり、力不足を痛感する日々です。おおぞらは生活の場であることを意識し、利用者の方々のよりよい生活を支えられるように尽力していききたいと思えます。

3号館 中山敦子

1月より育休明けで配属になりました中山です。今までの職場と業務内容が異なり戸惑うことも多いですが、利用者・ご家族の方に寄り添い安心安全な看護を提供していききたいと思っております。よろしくお願いたします。

3号館 田中友海

4月より育休明けで3号館に配属になりました。手術室からの移動で業務内容が全く違うため毎日大変ですが利用者のよりよい生活のため個別にあったケアや看護を提供出来るよう頑張りたいです。よろしくお願いたします。

3号館 岡部栞

4月より訪問看護ステーション細江から出向で来ております。来年3月末までという短い期間ではありますが、

ですが、利用者・家族ともによりよい看護を提供出来ればと思えます。よろしくお願いたします。

「生活支援員」

はるか 中津歩華

4月から入職いたしました中津歩華と申します。保育の専門学校から参りました。初めての就職でまだまだ分からないことが多いですが、日々試行錯誤を重ね、皆さんに少しでも早く貢献できるように努めて参ります。宜しくお願いいたします。

はるか 平野絵美

昨年千葉から引っ越し、4月に入社させていただきました。約10年間保育園勤務しており、障がいのある方と関わるのははじめてですが、たくさん学ばせていただき、早く仕事を覚えられればと思えます。よろしくお願いたします。

ほくと 柳田香緒里

4月から三方原ベテルホームより異動してきました。おおぞら療育センターは大学生の時に参加させて頂いていた夏季デイ以来ですが、ご利用者に寄り添った支援ができればと思っています。よ

ろしくお願い致します。

あおば 杉浦杏奈
4月より入職いたしました杉浦杏奈です。ご利用者の個性を意識し、寄り添った支援をしていきたいと思っております。社会人1年目で、右も左も分からずご迷惑をお掛けしますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

リレーエッセイ

「大切なおばさん」

鈴木里枝

私には、文通をしているおばさんがいます。出会いは、本当に奇跡というか、運というか……。私が9歳の時、小学校が創立百周年を迎え、そのお祝いに全校生徒で風船を飛ばしました。私の風船は干葉まで飛び、拾ったおばさんは小学校に手紙を出してくれました。それから、私とおばさんの文通が始まりました。おばさんに手紙を書き始めると書きたいことがたくさんで、いつもとりとめのない内容ばかりになってしまいうけれど、それに対してちゃんとお手紙で返事してもらいなから……。気づけば長いお付き合いです。いつからか、お互いに贈りものもするように

「事務」

事務所 川上美保

1月より聖隷三方原病院総務課から事務所へ異動になりました川上美保です。おおぞらへは約7年ぶりの復帰になります。また皆さんと関わらせていただけることを大変うれしく思います。どうぞよろしくお願い致します。

なりました。毎年、おばさんの送ってくれる梨、りんご、フリージアを楽しみに待つようになりました。多分それはおばさんも一緒かなと思います。私は、うなぎ、玉ねぎ、みかんを送ります。

おばさんに会ったのは今までで4回です。手紙では伝えたいことがたくさんあるのに、いざ会うと何から話していいのかわからない。これもお互い一緒かなと(笑)
このリレーエッセイにおばさんのことを書いたよって、また手紙を書くことと思います。



おおぞら食事紹介

3月3日は「ひな祭り」昼食のメニューを紹介します。

この月の食育食材は「たまご」、今では1年中手に入りますが、本来は産卵期を迎える春が旬です。たんぱく質や脂質、ビタミンA、ビタミンD、鉄分などが豊富で「完全栄養食品」ともいわれてきました。今回は、この「たまご」をオイスターソースで中華風に味付けしてみました。「ひな祭り羊羹」は、普通食の方からペースト食の方まで召し上がっていただけるように仕上げてみました。



普通食



キザミ食



ペースト食

【昼食の献立】

- ・米飯
- ・玉子の中華炒め
- ・蓮根と海老の塩炒め
- ・菜の花の白和え
- ・ひな祭り羊羹



苦情解決委員会

2025年1月～2025年3月期間中 受付した苦情2件
(期間中受付した苦情1件でした)

期日	苦情内容	期日	苦情解決の結果
3/12	<p>【おおぞらショートステイ】 ショートステイ利用開始時のご家族と施設職員との申し送りに関する事 「2月の後半、主治医の診察があり、普段より痰が多いため予防的に2週間分抗生剤が処方され内服中だった。そのため職員が施設医師に確認し、本来は処方医からの紹介状が必要と言われ、次回以降、同様なことがあれば、事前に施設に連絡してくださいと言われた。 今回のように医師から予防的と言われている内服もだめなのか。今後どうすれば良いのかわからなくなってしまうため、今一度ははっきりと説明を受けたい」</p>	3/19	<p>抗生剤の処方、予防的と医師からの判断があっても、何らかの体調変化がある場合に行われるため、事前に施設に連絡していただき、施設医師が利用の可否について判断する必要があります。その旨をご家族に説明しご理解をいただきました。</p>

	2月	3月	4月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	38人 (211日)	49人 (237日)	43人 (218日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	19人 (93日)	23人 (97日)	23人 (89日)
実習者数 (グループ数)	0人 (0グループ)	2人 (1グループ)	0人 (0グループ)

